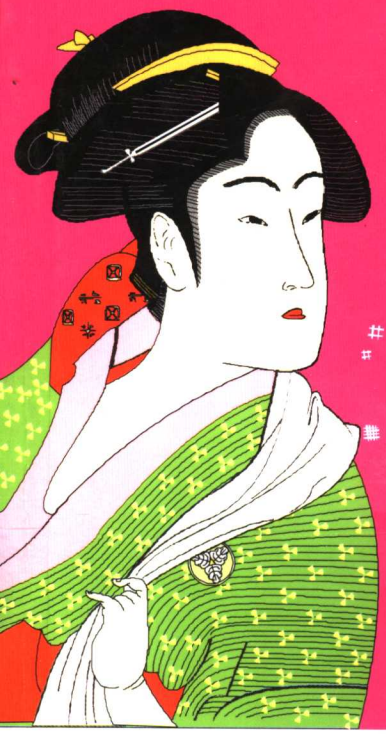
徐　曙
编著　魏铀原
林　进



大学日本語専攻生八級能力試験問題

日语专业八级考试全攻略

上海交通大学出版社

日语专业八级考试全攻略

徐　曙
魏铀原　编　著
林　进

上海交通大学出版社

内容提要

本书是根据高校日语专业八级考试大纲和“高等院校日语专业高年级阶段教学大纲”的要求编写而成。内有日语专业八级考试的大纲、样题及样题解析，对备考具有一定的指导意义。另有三套近三年的考试真题与三套模拟题，并分别附有详尽的解析，以便读者进行自我测试和评估。

本书的主要对象是高等院校日语专业的学生，也可供准备参加日语专业研究生入学考试的考生练习参考。日语专业教师也可将其作为教学参考书及教学测试参考书。

图书在版编目（CIP）数据

日语专业八级考试全攻略／徐曙等编著．—上海：上海交通大学出版社，2006
ISBN7-313-04252-3

I.日... II.徐... III.日语－高等学校－水平考试－自学参考资料 IV.H360.42

中国版本图书馆CIP数据核字（2005）第110740号

日语专业八级考试全攻略
徐曙　魏铀原　林进 编著
上海交通大学出版社出版发行
（上海市番禺路877号　邮政编码200030）
电话：64071208　出版人：张天蔚
上海颢辉印刷厂印刷　全国新华书店经销
开本：787mm×1092mm　1/16　印张：19.25　字数：472千字
2006年1月第1版　2006年1月第1次印刷
印数：1-5050
ISBN 7-313-04252-3/H·828　定价：30.00元

版权所有　侵权必究

前　言

高校日语专业四、八级考试是目前我国日语界客观评定应试者(主要为各高校日语专业的学生)日语能力的专业性考试。这种考试在为日语专业学生提供一个检测自己所学成果的客观依据的同时,也对考察我国高校日语专业学生日语水平,促进日语教学和研究起着重要作用。

由于日语专业八级考试实施不久,许多教师和学生对考试大纲及测试标准、形式尚欠把握。客观现实需要围绕考试大纲的讨论和消化,也需要有示范性的分析、指导参考材料。在这种背景下,我们根据高校日语专业八级考试大纲和"高等院校日语专业高年级阶段教学大纲"编写了本书。

本书收入了考试大纲样题及2002、2003、2004年的八级全真试题。在对样题进行详细分析、解说的基础上,对已经实施的三年的全真试题逐题进行了分析解释,并给出了全部参考答案。主观题的翻译及作文也一并给出了参考译文和样文。考虑到学生系统学习练习及教师指导参考之需,我们在每一份全真题后配套编制了一套与实际考题形式全部对应的模拟试题,同样给出了详细解析与参考答案以及主观题翻译、日语写作的参考译文与作文。考虑到部分学校师生对日语专业八级考试中日语古文及文学史试题的无所适从之感,我们在对大纲样题分析解释的同时,分别附上了古文语法要点的解说和日本文学史年表。考虑到阅读理解的试题文体不同,阅读解题要领也会有所不同,我们在编制模拟试题时,分别选用了说明文、论说文、随笔、小说、对谈等不同文体的文章。听解部分我们不仅作了录音,并在书后附上了录音文字稿之外,还在模拟题中对每道听解题逐题进行了解析和听解要领指导。希望我们的苦心能给学习者带来一个事半功倍的学习效果,也为第一线的教师提供一份参考。

本书的主要对象是高等院校日语专业的学生,也可供准备参加日语专业研究生入学考试的考生练习参考。日语专业教师也可将其作为教学参考书及教学测试参考书。

本书虽为编者多年教学与研究积累所发,自觉也是尽了努力,但终因学识与能力有限,更因时间仓促,缺陷疏漏难免,恳请批评指正。权将本书作引玉之砖,期待更多佳玉问世。

编者

2005年6月30日

目　录

“高校日语专业八级考试大纲”解析……（1）
日语专业八级考试样题 ……（20）
日语专业八级考试样题参考答案 ……（33）
2002年日语专业八级考试全真题 ……（58）
2002年日语专业八级考试全真题参考答案 ……（72）
2003年日语专业八级考试全真题 ……（97）
2003年日语专业八级考试全真题参考答案 ……（112）
2004年日语专业八级考试全真题 ……（136）
2004年日语专业八级考试全真题参考答案 ……（151）
日语专业八级考试模拟试题(一)……（175）
日语专业八级考试模拟试题(一)参考答案……（191）
日语专业八级考试模拟试题(二)……（215）
日语专业八级考试模拟试题(二)参考答案……（232）
日语专业八级考试模拟试题(三)……（258）
日语专业八级考试模拟试题(三)参考答案……（275）

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

“高校日语专业八级考试大纲”解析

考试大纲给出的试卷题型、题数、计分、比重及考试时间如下表：

卷别	序号	各部分名称	题型	题号	题数	计分	比重	考试时间（分）
试卷一	Ⅰ	听力理解	对话、短篇	1～10	10	30	15%	20
试卷二	Ⅰ	文字	假名、汉字	11～20	10	10	45%	100
	Ⅱ	词汇	常用语 惯用语 谚语	21～30 31～40 41～45	10 10 5	10 10 5		
	Ⅲ	语法	常用语法表达形式（含助词、助动词、语法功能词等）句型与敬语	46～55 56～65	10 10	10 10		
	Ⅳ	文学	古典·近代文学 文学史知识	66～73 74～76 77～81	8 3 5	8 6 5		
	Ⅴ	阅读理解	长篇	82～93	12	16		
试卷三	Ⅰ	翻译	中译日		1	40	40%	120
	Ⅱ	写作	常用文体写作		1	40		

试卷一：为听力理解部分的考试。这部分考试要求精力的高度集中，遇到不知道词义的个别单词并不影响答题。关键要在听的过程中抓住针对设问的关键句。可以通过本书提供的录音材料进行练习。练习过程中要集中精力听，把你认为重要的内容（关键词或关键句）记录下来（哪怕用中文做记录也可以）。听过后看一下模拟试题的解说。

试卷二：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ分别为文字、词汇、语法，是我们大部分考生至今为止学习的主要内容，也是大部分考生的强项。这一部分主要靠的是平时的积累，多读、多记是最可靠的方法。

试卷二：Ⅳ是与文学相关的测试内容。其中古典语法与阅读占11题计14分，文学史占5题5分。这一部分内容往往是考生最为头疼的。但实际上这部分的考题设问很集中，其

中 66～73 主要是针对日语古典语法的“助動詞”及以“係助詞”为主的一部分助词。熟记下面两张表可以在很大程度上解决古文考题的解答。至于 74～76 题则主要是与日语古文修辞法有关的设问。这一部分内容也可以通过稍后的解说予以掌握。至于 77～81 的文学史考题，记住后面我们归纳的日本文学年表当可获得理想的成绩。

长篇阅读理解的原文题材主要是说明文、论说文、随笔、小说、对话。文体不同，阅读时要注意的要点也有区别。我们在后面专门对阅读理解各种体裁的文章分别作了阅读问津式的要领指导，相信对考生会有启发。

一、古典の“助動詞”問題

表一　助動詞一覧表——接続による分類

接続	種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	意味	接続
未然形	自発・可能 受身・尊敬	る	下二段型	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	①自発 ②可能 ③受身 ④尊敬	四段・ラ変・ナ変の未然形
		らる		られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ		上以外の未然形
	使役・尊敬	す		せ	せ	す	する	すれ	せよ	①使役 ②尊敬	四段・ラ変・ナ変の未然形
		さす		させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ		上以外の未然形
		しむ		しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ		未然形
	打消	ず	特殊型	(ず)	ず	ず	ぬ	ね	○	①打消	未然形
			ラ変型	ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ		
	推量	む	四段型	(ま)	○	む	む	め	○	①推量 ②意思 ③適当・勧誘 ④仮定・婉曲	
		むず	サ変型	○	○	むず	むずる	むずれ	○		
		まし	特殊型	ましか	○	まし	まし	ましか	○	①反実仮想 ②意志・希望 ③単なる推量	

（続表）

	打消推量	じ	不変化型	○	○	じ	じ	（じ）	○	①打消推量 ②打消の意志 ③不適当・制止	未然形
	希望	まほし	シク活用形	（まほしく） まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○	①希望	
連用形	過去	き	特殊型	（せ）	○	き	し	しか	○	①過去	連用形・未然形
		けり	ラ変型	（け	○	けり	ける	けれ	○	①過去②詠嘆	未然形
	完了	つ	下二段型	て	て	つ	つる	つれ	てよ	①完了 ②強意・確述	
		ぬ	ナ変型	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね		
		たり	ラ変型	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	①完了②存続	
	推量	けむ（けん）	四段型	○	○	けむ	けむ	けめ	○	①過去推量 ②過去原因推量 ③伝聞・婉曲	
	希望	たし	ク活用型	（たく） たから	たく たかり	たし ○	たき たかる	たけれ まる	○	①希望	
終止形	推量	らむ（らん）	四段型	○	○	らむ	らむ	らめ	○	①現在推量 ②現在原因推量 ③伝聞・婉曲	
		めり	ラ変型	○	（めり）	めり	める	めれ	○	①推量②婉曲	

（続表）

		らし	不変化型	○	○	らし	らしき（らし）	（らし）	○	①推量	終止形（ラ変型には連用形）
		べし	ク活用型	（べく）	べく	べし	べき	べけれ	○	①推量 ②意志 ③適当・当然 ④義務・命令 ⑤可能	
				べから	べかり	○	べかる	○			
	打消推量	まじ	シク活用型	（まじく）	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○	①打消推量 ②打消の意志 ③不適当・打消の当然 ④禁止 ⑤不可能	
				まじから	まじかり	○	、まじかる	○			
	伝聞推定	なり	ラ変型	○	（なり）	なり	なる	なれ	○	①伝聞　②推定	
体言・連体形	断定	なり	ナリ活用型	なら	なり	なり	なる	なれ	○	①断定	体言・連体形
					に						
		たり	タリ活用型	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ		体言
					と						
	比況	ごとし	ク活用型	（ごとく）	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	①比況 ②例示 ③同一	体言・連体形
特殊	完了	り	ラ変型	ら	り	り	る	れ	れ	①完了 ②存続	命令形・未然形

二、古典の"係り結び"の法則について

種々の語に付いて、強意・疑問・反語などの意味を添え、文末を一定の結び方にする助詞を**係助詞**という。文末の結び方には、①**連体形・已然形で結ぶもの**、②**原則として終止形で結ぶもの**、の二通りがある。

①連体形・已然形で結ぶもの(係り結びの法則)

文中に係助詞「**ぞ**」「**なむ**」「**や(やは)**」「**か(かは)**」が用いられると、文末を連体形で結び、「**こそ**」が用いられると、文末を已然形で結ぶ。このきまりを「係り結びの**法則**」という。

係り結びを単純な例文で比較すると次のようになる。

普通文　　空　　広し。　——→終止形

係り結び
- <ぞ>　空ぞ　広き。
- <なむ>　空なむ　広き。
- <や>　空や　広き。
- <か>　空か　広き。

——→連体形

- <こそ>　空こそ　広けれ。　——→已然形

係り結びを表にまとめると、次のようになる。

係助詞	意　味	結びの活用形
こそ	強　意	已然形
ぞ		連体形
なむ		
や(やむ) か(かは)	疑問・反語	

三、古典の修辞法について

修辞法…言葉を効果的に使い、表現や文章に豊かな表現を与えたり、趣を添えたりする技巧。枕詞・掛詞・序詞・縁語・句切れ・体言止めがある。

1. 枕詞

ある言葉を導くために、その直前に置かれ、句調を整えたり、情緒的な意味を添えたりする語。枕詞の意味は失われているものが多く、通常は五音で、訳さない。

あらたまの年のをはりになるごとに雪も我が身もふりまさりつつ

(古今集・冬)

(毎年年の終わりになると雪が降り、私の体も古びていく。)

2. 掛詞

一つの同じ音で、二つ以上の意味を表す技法。

大江山**いくの**[生野][行く]の道の遠ければまだ**ふみ**[踏み][文]もみず天橋立

（金葉和歌集・雑上）

（大江山を越え、生野を通って行く道が遠いので、まだ天橋立は踏んでもいないし、(母からの)文も見ていません。）

3. 序詞

七音以上で、枕詞と同様、ある言葉を導くための語で、背景を具体的にイメージさせたり、連想させたりする効果を与える。訳す必要がある。

(1) 意味的な関連なもの[訳すときは「～のように」]

みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに

（古今集・恋）

（みちのくのしのぶもぢずりの乱れ模様のように、誰のために私の心が乱れるのでしょう。）

(2) 音的なもの[訳すときは「～ではないが」]

住江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ　（古今集・恋）

（住江の岸に寄る波ではないが、夜までも夢の中の通い路で、あの人は人目を避けるのだろうか。）

(3) 掛詞の序詞[訳すときは「～という」]

立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

（古今集・離別）

（あなたと別れ、因幡の国へ行ったとしても、その因幡の山の峰に生えているという松のように、(あなたが私を)待つと聞いたのなら、すぐに帰りましょう。）

4. 縁語

和歌の中のある語と密接な関係のある語で、和歌の主題と直接関係はないが、その和歌に情緒や面白みを添える。

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに**焼く**や**藻塩**の身も**こがれ**つつ

（新勅撰集・恋）

（来ない人を待ち、松帆の浦の夕なぎに焼く塩のように、私のみも恋焦がれている。）

5. 体言止め

和歌の末尾が体言で終わるもの。新古今集に多い。

村雨の露**もまだひぬまきの**葉に霧たちのぼる秋の夕暮れ

（新古今集・秋下）

（降りすぎた村雨の雫もまだ乾かない真木の葉に、白い霧が立ち上ってくる秋の夕暮れよ。）

6. 折句

和歌の各句のかな五文字の言葉を折り込んだ技法。

「**かきつばたといふ**五文字を句の上にすゑて、旅の心をよめ」といひければ、よめる、から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞ思ふ

（伊勢物語・九段）

（(普段から着慣れた)唐衣のように、慣れ親しんできた妻が都にいるので
はるばる遠くにやってきたこの旅が悲しく思われる。）

7. 句切れ

短歌というのは、まず五・七・五・七・七の三十一音の形のものであるが、その形式をも

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

う少し詳しく見ていくことにする。

1）**句ごとの呼び方について**

短歌は五・七・五・七・七の5つの句に分かれているが、実はこの5つの句のひとつひとつに、ちゃんと呼び方があのでめな。まずはそれを押さえてほしい。

例で説明する。

海恋し　潮の遠鳴りかぞへては　少女となりし　父母の家

与謝野　晶子

これを全部ひらがなに直して書くと、次のようになる。

五・七・五・七・七になっているのがわかる。

その上で、それぞれの句を何と言うかしっかり覚えてほしい。

うみこいし	しおのとおなり	かぞへては	をとめとなりし	ちちははのいえ
初句	二句	三句	四句	結句

2）**「句切れ」について**

①「句切れ」とはどんなことを言うのだろう？

小説などを読むと、当たり前のように「句読点（くとうてん）」が使われている？

さっきの短歌を読んでもらえればわかるが、短歌には句読点なんて使わない。でも、短歌にもちゃんと「意味の切れ目」は存在するのだ。句読点がないからどこが意味の切れ目なのか良くわからないだけだ。この、意味の切れ目の部分を「句切れ」という言い方をする。

句切れというものは、短歌の5つの句のどこで意味が切れるかによって、呼び方が違う。というわけで、句切れの種類をまず覚えて下さい。では、何というのかと言うと…

○○○○○	○○○○○○○	○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○
初句切れ	二句切れ	三句切れ	四句切れ	句切れなし

②句切れの位置はどうやって見分けるのか？

ここでは一つの解法を提示する。まずは**次の6 字を暗記**しなさい。

り・し・つ・ぬ・ず・む

まず、短歌を五・七・五・七・七に分けて、そして、**それぞれの句の一番最後の文字に注目**する。

図解すると、下の黒丸の部分のコトである。

○○○○● ○○○○○○● ○○○○● ○○○○○○● ○○○○○○●

そうしたら、5 箇所の黒丸の中で、**一番最初に「り・し・つ・ぬ・ず・む」のいずれかの文字があったところが「句切れ」の場所である**、と覚えてください。

ごく簡単に根拠を説明すると、「り・し・つ・ぬ・ず・む」の6 文字は、それぞれ古文の助動詞の「終止形」にあたる文字なのである。

「終止形」については文法で習ったと思うが、要は「文が終わるトコロ」である。もっと言

うと、句読点の内の句点(「。」のコト!)が使われるトコロになるわけだ。

「句点が使われる＝文の切れ目＝意味の切れ目」になるわけである。

だから、ここが「句切れ」の位置になるわけだ。次の例を見てみよう。

A　**おり立ちて　今朝の寒さを　驚きぬ　露しとしとと　柿の落ち葉深く　三句切れ**

B　**海恋し　潮の遠鳴り　かぞへては　少女となりし　父母の家　初句切れ**

C　**あたらしく　冬きたりけり　鞭のごと　幹ひびき合い　竹群はあり　二句切れ**

D　**ゆく秋の　大和の国の　薬師寺の　塔の上なる　一ひらの雲　句切れなし**

E　**街をゆき　子供のそばを　通るとき　蜜柑の香せり　冬がまた来る　四句切れ**

結句以外の句で終止し、二句切れ・四句切れを五七調といい、また初句切れ・三句切れを七五調という。

句末が**終止形・命令形・係り結び・終助詞**であれば**句切れ**となる。句切れが二ヶ所あるものや句切れのないものもあり、句切れなしが和歌では最も多い。

(1) **五七調(万葉集に多い)**

春過ぎて夏来にけらし/白妙の衣ほすてふ天の香具山

(万葉集・一)

(春が過ぎて夏が来たようだ。夏になると白い衣をほすという天の香具山に白い衣が見えるなぁ。)

わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと/人にはつげよあまのつり舟

(古今集・羇旅)

(広い海を、多くの島を目指して配所の隠岐に船出したとあの人に伝えてください。海人のつり舟よ。)

(2) **七五調(古今集以降に多い)**

契りきな/かたみに袖をしぼりつつ末の松山波越さじとは

(後拾遺集・恋)

(あなたと私は約束をしましたよね。互いに涙でぬれた袖をしぼりながら、
末の松山を浪が越すことがないように2人の愛もいつまでも変わらないと。)

我が庵は都のたつみしかぞすむ/世を宇治山と人はいふなり

(古今集・雑下)

(私の庵は都の東南にあり閑静に住んでいるが、世を住みづらく思ってこの宇治山に逃れてくるのだと世間の人は言っているようだ。)

(3) **句切れが二ヶ所**

もろともにあはれと思へ/山桜　/花よりほかに知る人もなし

(金葉集・雑上)

(お互いになつかしく思い合おう、山桜よ。桜花より他に私の心をわかってくれる人もいないことだ。)

(4) **句切れなし**

春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなく立たむ名こそ惜しけれ

(千載集・雑上)

(はかない春の夜の夢のような浮ついた腕枕ために、甲斐もなく浮き名が立つのは残念な

ことだ。)

四、日本文学史について

日本文学年表

上代の文学(大和時代、奈良時代)

西　　暦	主要作品・重大事項	作者・編者
645 年	大化の改新	
712 年	『古事記』	
713 年	『風土記』編集の勅命	大安万侶
720 年	『日本書紀』	
751 年	『懐風藻』	
759～780ごろ	『万葉集』	大伴家持か

中古の文学(平安時代)

西　　暦	主要作品・重大事項	作者・編者
820 年	『文鏡秘府論』	空海
900 年	『竹取物語』	
905 年	『古今和歌集』	紀貫之ら
935 年	『土佐日記』	紀貫之
946 年	『伊勢物語』	
974 年	『蜻蛉日記』	藤原道綱母
990 年	『落窪物語』	
1001 年	『枕草子』	清少納言
1007 年	『和泉式部日記』	和泉式部
1008 年	『源氏物語』	紫式部
1010 年	『紫式部日記』	紫式部
1013 年	『和漢朗詠集』	藤原公任
1035 年	『栄華物語』	赤染衛門か
1045 年	『浜松中納言物語』	
1055 年	『堤中納言物語』	
1059 年	『更級日記』	菅原孝標女
1115 年	『大鏡』	
1120 年	『今昔物語』	源隆国か
1169 年	『梁塵秘抄』	後白河院
1187 年	『千載和歌集』	藤原俊成
1190 年	『山家集』	西行
1192 年	源頼朝、鎌倉幕府を開く	

中世の文学(鎌倉時代)

西　　暦	主要作品・重大事項	作者・編者
1205年		藤原定家
1212年	『新古今和歌集』	鴨長明
1213年	『方丈記』	源実朝
1215年	『金槐和歌集』	
1219年	『古事談』	
	『平家物語』原型	
1222年	『宇治拾遺物語』	
1235年	『保元物語』	藤原定家
1280年	『小倉百人一首』	阿仏尼
1331年	『十六夜日記』	吉田兼好
1333年	『徒然草』	
1371年	鎌倉幕府滅亡	
1400年	『太平記』	世阿弥元清
1411年	『風姿花伝』	
1518年	『義経記』	
	『閑吟集』	

近世の文学(江戸時代)

西　　暦	主要作品・重大事項	作者・編者
1603年	徳川家康、征夷大将軍となる	
	江戸幕府を開く	
1673年	『源氏物語湖月抄』	北村季吟
1682年	『好色一代男』	井原西鶴
1685年	『野ざらし紀行』	松尾芭蕉
1686年	『好色五人女』	井原西鶴
	『好色一代女』	井原西鶴
	『出世景清』	近松門左衛門
1688年	『日本永代蔵』	井原西鶴
1692年	『世間胸算用』	井原西鶴
1694年	『奥の細道』	松尾芭蕉
1703年	『曽根崎心中』	近松門左衛門
1711年	『冥途の飛脚』	近松門左衛門
1715年	『国性爺合戦』	近松門左衛門
1720年	『心中天の網島』	近松門左衛門
1748年	『仮名手本忠臣蔵』	竹田出雲ら
1749年	『英草紙』	都賀庭鐘
1776年	『雨月物語』	上田秋成
1784年	『蕪村句集』	与謝蕪村
1798年	『古事記伝』	本居宣長
1802年	『東海道中膝栗毛』	十返舎一九
1809年	『浮世風呂』	式亭三馬
1814年	『南総里見八犬伝』	滝沢馬琴
1820年	『おらが春』	小林一茶
1867年	大政奉還、明治維新	

近代の文学(明治、大正、昭和時代)

西　　暦	主要作品・重大事項	作者・編者
1868 年	『当世書生気質』	坪内逍遥
1885 年	『小説神髄』	坪内逍遥
1886 年	『小説総論』	二葉亭四迷
1887 年	『浮雲』	二葉亭四迷
1889 年	『於母影』	森鴎外ほか
1890 年	『舞姫』	森鴎外
1891 年	『五重塔』	幸田露伴
	『蓬莱曲』	北村透谷
1895 年	『たけくらべ』『にごりえ』『十三夜』	樋口一葉
1896 年	『多情多恨』	尾崎紅葉
1897 年	『金色夜叉』	尾崎紅葉
	『若菜集』	島崎藤村
1898 年	『不如帰』	徳富蘆花
1900 年	『高野聖』	泉鏡花
1901 年	『武蔵野』	国木田独歩
	『みだれ髪』	与謝野晶子
1905 年	『吾輩は猫である』	夏目漱石
1906 年	『破戒』	島崎藤村
	『坊ちゃん』『草枕』	夏目漱石
1907 年	『虞美人草』	夏目漱石
	『蒲団』	田山花袋
1908 年	『三四郎』	夏目漱石
	『春』	島崎藤村
1909 年	『新世帯』	徳田秋声
	『ふらんす物語』『すみだ川』	永井荷風
	『それから』	夏目漱石
	『田舎教師』	田山花袋
1910 年	『歌行燈』	泉鏡花
	『家』	島崎藤村
	『青年』	森鴎外
	『門』	夏目漱石
	『網走まで』	志賀直哉
	『足跡』	徳田秋声
	『刺青』	谷崎潤一郎

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com